

# 諏訪地方の 経済概況 速報

2015.12

2015年11月末調査／2015年12月25日発行

SUWA AREA  
ECONOMIC  
OVERVIEW



諏訪信用金庫  
SUWA SHINKIN BANK

## 諏訪地方の概況

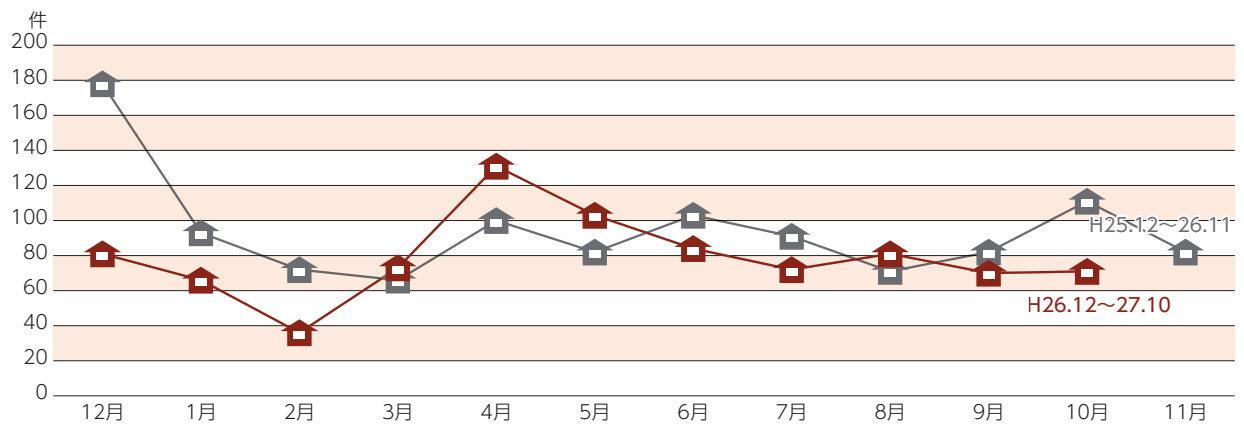
11月は、製造業が中国や新興国経済減速の影響で、受注に陰りが見られる企業が増える一方で、堅調な企業もあり、まだら模様となっている。また、フランスのパリでテロが起きたことで、一部企業からは今後の欧州情勢を懸念する声もある。非製造業は11月の天候が、記録的な高温となった影響を受け、商業で冬物関連商品の動きが鈍かった。観光業はシーズンの狭間で低調に推移し、建設業は公共工事が減少傾向となっている。

諏訪地方の有効求人倍率は、全県や全国平均を上回り、建設業や商業などを中心に労働力確保の経営課題が続いている。

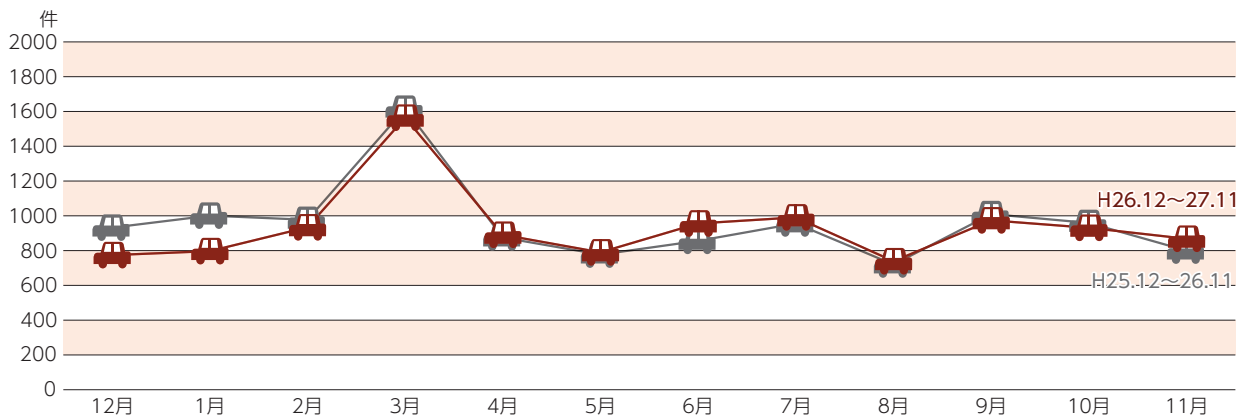
(諏訪信用金庫の取引先約130社へのヒアリング調査による取りまとめ)

		実 数	前年同期比	
有効求人倍率【10月】(諏訪公共職業安定所管内)		1.29倍	0.20ポイント	
手形交換高【11月】(諏訪手形交換所扱)	枚 数	6,653枚	2,331枚	
	金 額	8,722百万円	3,958百万円	
	うち不渡り発生状況	枚 数	8枚	8枚
		金 額	11,844千円	11,844千円
電力使用量【11月】(中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	45,789MWh	△7.0%	
	高圧電力計	87,115MWh	△3.0%	
	合 計	132,904MWh	△4.4%	
車庫証明取扱件数【11月】(諏訪地方合計)		868件	8.5%	
新設住宅着工戸数【H27年4月～10月】(諏訪管内)		612戸	△4.4%	

### ■新設住宅着工件数の推移(諏訪地方合計)



### ■車庫証明件数の推移



11月は世界経済に関わる取引先の動向によって業況に差があり、まだら模様となっている。また、受注がある程度確保できて品質、単価、納期といった面での要求が厳しく、収益を圧迫する傾向もある。自動車部品関連など輸送用機械は、一部のメーカー向けでは好調だが、総体的には減少傾向となっている。重機関連も中国経済減速の影響で、動きが鈍い。金属製品加工は、主要取引先数社からの受注が減少した企業など、夏以降減少傾向の企業が増えている。一般機械は、省力化機械関連で中国の影響は感じられないという好調な企業がある一方で、海外向け大型装置はほとんど動きがないとする企業もあり、格差がある。電気機械は、情報機器や電源装置関連などで堅調に推移する企業がある反面、一服感の企業もある。精密機械は、監視カメラや車載カメラ、研究機関向けレーザー用レンズなどは堅調だが、高難度のレンズ加工が主流で、業界内の受注格差がある。

<b>金属製品</b> プレス、メッキ、熱処理など	大手メーカーの1次下請けなどでは落ち込みが少なく、例年並みの受注量が確保される見込みだが、一方で単価引き下げ要請が強く、収益確保が難しい状況もある。また、複数の取引先からの受注が減少している企業がある。春ごろの回復を見込む企業もあるが、受注状況から見て先行き不透明感が強く、年明けにかけての早期の回復は難しいと見る企業が多い。
<b>一般機械</b> 工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など	医療機関連や搬送用機械、省力化機械の一部は堅調で、ここ数年で最高の年間売上見込みとする企業がある。一方で、大手企業からの引き合いが鈍くなり、先行きの不透明感が増してきている企業や治具の改良はあるものの、機械装置そのものの受注は例年を下回る企業などが見られる。取引先の内製化に伴い受注が減少した企業もある。北米や一部国内向けの受注は堅調だが、新興国向けは伸び悩む傾向となっている。
<b>電気機械</b> 家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、半導体関連など	情報機器分野の一部で、好調が続いていた企業にやや一服感があるものの、電源装置関連や医療機器関連の受注は引き続き安定して推移している。海外向け受注もコンスタントで世界経済減速の影響は受けていないとする企業がある。継続性は不明だが、過去に海外流出した仕事の一部で、国内回帰する動きもある。
<b>輸送用機械</b> 自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など	自動車関連はメーカーや取扱い部品などによって差があるが、総体的には低調な動きが続いている。その中でバスやトラック向け部品は比較的堅調に推移している。また、春に向けた新型車関連の受注も出てきている。重機関連の部品加工は中国経済減速の影響で需要が減り、受注は減少している。船外機は中国・新興国向けが横ばいで推移し、4ストロークの大型エンジンは減少し、2ストロークエンジン部品が増加している。減速機は中国向けで、在庫過多の生産調整があり、減少傾向となっている。
<b>精密機械</b> 時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など	光学機器は、業界全体の受注量は減少しているが、高難度のレンズ加工が堅調に推移し、受注格差が出始めている。一部地元企業からの発注が多く、その対応に追われる企業もある。反面、欧州向けの取引先を持つ企業の受注は、ここ数ヶ月減少傾向となっている。一般カメラ用レンズは一部高級機種を除き、伸び悩んでいる。
<b>製造業全般</b>	衣料品製造は、主力取引先からの高級品を中心とした受注が、例年より増加傾向で推移している企業がある。11月で秋冬物の生産が終了し、端境期に入る。12月から今季製造開始予定の寒天は寒さ不足の上、テングサは円安の影響で2割程度高く、その分国内産も値上がりしている。

## 商業

### 「気温が高く冬物が低調」

諏訪地方の11月の天候は、月平均気温が長野地方気象台の観測史上2番目の高さとなり、諏訪では最低気温が氷点下にならない日が月末まで続いた。このため、原油安を受けてガソリンや灯油は下落傾向だったが、暖房関連の需要は伸びなかった。また、食品の値上げなどで消費者には、生活必需品の購入を最低限に抑えようとする傾向も見られる。小売店などでは依然、パートやアルバイトの確保に苦慮する展開も続いている。自動車販売（軽を除く）は、諏訪地方の11月の車庫証明件数が868件で、前年同月比68件増加（8.5%）した。

衣料	前年より高温の日が続き、厚手のコートなどの冬物衣料やふとん、毛布などの売上が伸び悩んだ。
食料品	生鮮野菜、精肉関連、鮮魚関係の価格は安定していた。暖冬の影響で、例年に比べて漬物商材の動きが悪く、ギフト用リンゴも昨年より高値となった。
家電製品	4Kテレビの動きは鈍い。量販店以外の小売店では、エアコンの設置などアフターサービスに力を入れている。
自動車	県内の11月の新車新規登録台数は、登録車が2ヶ月ぶりに増加し、軽自動車は11ヶ月連続で減少した。全体では前年同月比526台減少（△5.7%）の8,756台で、3ヶ月連続で減少した。
ホームセンター	気温が高く、従来動きがある暖房器具など冬物の動きが鈍く、売れ行きが伸びなかった。

## 観光・サービス業

### 「シーズンの端境期で入り込みは低調」

11月の諏訪地方は、シーズンの端境期で、観光地の入り込みは低調だったが、その中で星空見学プランやスキー場のレストランでのイベントなど独自の取り組みで集客した施設もあった。冬季シーズンに向けたスキー場の準備も始まったが、冷え込みが弱いことから、人工雪の降雪状況は芳しくなかった。今後の集客を目指して、人工芝サッカーコートを設置や建物改修などの施設整備をしたり、ホームページを一新してイメージチェンジを図る施設もある。

上諏訪温泉	インバウンドは前年比大幅増で、依然堅調に推移している。11月は前年並みの入り込みに、海外からの旅行客が加わり、総体の宿泊客数は、前年同月より増加している。団体客より、2～4人程度の小規模の旅行客が多くなる傾向で、各施設の宿泊客数は前年同月比80%～110%台となっている。年末にかけての宴会の予約は例年並みだが、宿泊を伴わない宴会が多くなっている。
蓼科・白樺湖・車山等	紅葉シーズンが終わり、閑散期となっている。11月は県内のスキー場は雪不足で白馬方面でも滑走できない状態だった。暖冬予報が懸念され、人工降雪機の稼働率が集客を左右しそうという声がある。また、今年は年末年始の休日が少ないことから、スキー場への入り込みは昨年を下回るのではとの見方もある。
下諏訪温泉	宿泊客数は施設によって増減まちまちで、中旬以降の入り込みが苦戦した施設がある。総体的に忘年会予約は例年並みだが、泊まりでの宴会は大幅に減少している。
諏訪大社	上社・下社合わせた11月の参拝者数は約54千人。前年同月比では約1,600人の減少（△2.9%）となった。

## 建設業

### 「公共工事は減少、小口化」

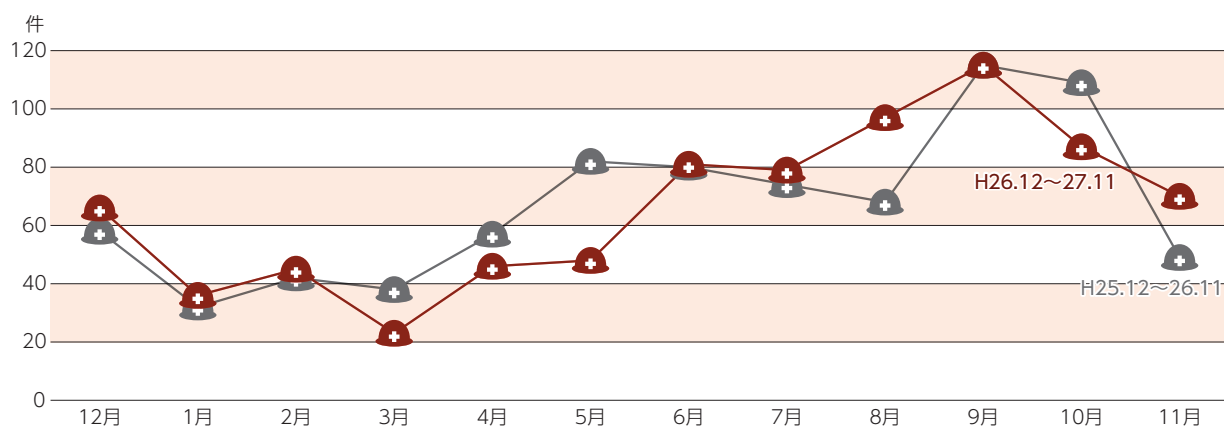
11月の市町村からの受注工事は、合計70件、334百万円となった。前年同月に比べ、件数は21件増加したが、契約金額は71百万円減少した。一方、国県関係の4月～11月の累計公共工事（地元業者受注分）も前年同期累計比で件数は増加しているが、契約金額は減少している。公共工事は減少傾向で小口化が顕著となっている。御柱を控えた幹線道路の工事を年度内に終わらせる必要から、今後も一層小口化に拍車がかかると見られる。民間工事は、諏訪地方の10月の新設住宅着工戸数が71戸で、前年同月比40戸の減少（△36.0%）となった。

<b>公共工事</b>	<p>11月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、諏訪建設事務所5件、その他土木工事・建築1件の合計6件で、契約金額は147百万円だった。平成27年4月～11月の累計は95件、3,055百万円となり、前年同期の累計比で件数は9件増加したが、契約金額は1,444百万円減少（△32.1%）した。</p> <p>市町村からの11月の受注工事は、建築工事1件7百万円、土木工事及び下水道工事59件294百万円、その他工事10件33百万円となった。</p>
<b>民間工事</b>	<p>諏訪地方の10月の新設住宅着工戸数は、前年同月比の利用関係別で「持家」は4戸増加の63戸、「貸家」は43戸減少の5戸、「分譲」は2戸減少の2戸、「給与」は1戸増加の1戸となった。平成27年4月～10月の累計は612戸で、前年同期比28戸減少（△4.4%）となっている。</p> <p>長野県内の10月の新設住宅着工戸数は960戸で、前年同月比11.1%減少した。前年同月比の利用関係別では、「持家」が579戸で7.8%増加、「貸家」は204戸で55.5%減少、「給与」は12戸で140.0%増加、「分譲」は165戸で106.3%増加した。</p>

#### ■諏訪地方の10月の新設住宅着工状況

区分 市郡名	合計 戸数	前 年	利 用 関 係 別								構 造 別			
			持家	前年	貸家	前年	給与	前年	分譲	前年	木造	前年	非木造	前年
岡谷市	24	11	19	9	5	0	0	0	0	2	21	10	3	1
諏訪市	20	51	19	9	0	42	0	0	1	0	16	31	4	20
茅野市	13	32	13	26	0	6	0	0	0	0	12	31	1	1
諏訪郡	14	17	12	15	0	0	1	0	1	2	13	15	1	2
合 計	71	111	63	59	5	48	1	0	2	4	62	87	9	24

#### ■公共工事の推移（市町村合計件数 調査・測量・設計など業務委託は除く）





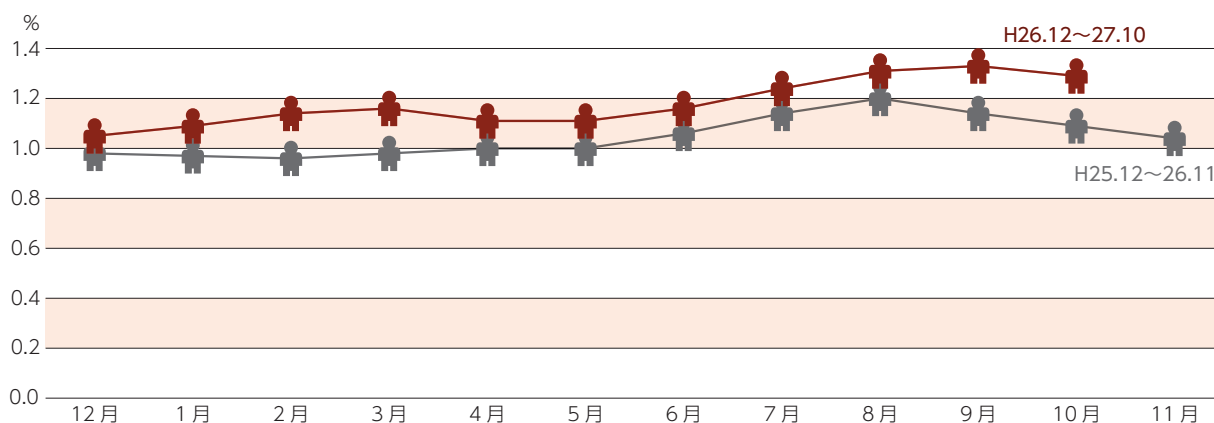
## 雇用

### 「有効求人倍率全県、全国水準上回る」

諏訪地方の10月の有効求人倍率は、前年同月を0.20ポイント上回り、前月を0.04ポイント下回る1.29倍となった。前月は下回ったものの、1倍台の維持は19ヶ月連続で、前年同月を上回るのは29ヶ月連続となり、全県、全国水準も上回った。依然、「労働力確保」が経営上の課題となっている企業が多い。全国平均は前月比横ばいの1.24倍で23年9ヶ月ぶりの高水準となった。長野県平均は前月を0.02ポイント上回る1.28倍で、16ヶ月連続で全国を上回っている。新規求人の実数値は31ヶ月連続で前年同期を上回り、バブル期の水準となっている。

諏訪地方の新規求人(全数)は1,791人で、前年同月比154人増加(9.4%)した。要因別では「業務量拡大」「継続する人員不足」が増加し、「欠員補充」「創業・新分野展開」は減少した。業種別の前年同月比の新規求人数は、「生活関連サービス・娯楽業」「飲食店・宿泊業」で増加し、「建設業」で減少した。新規求職者数は913人で、前年同月比114人減少(△11.1%)した。1件10人以上の人員整理はなく、事業主都合による雇用保険資格喪失者は33人で、前年同月比13人減少し、前月比では6人増加した。

#### ■有効求人倍率の推移



### 《企業のひとこと》

- リーマン・ショックと同様な雰囲気がある。来春までは落ち込む見込み(金属製品加工業)。
- 業種に限らず安定した受注があり、リーマン・ショック前の年間売上になる見込み(一般機械製造業)。
- 夏場以降、製造業は全体的に弱含んでおり、地域中堅企業が内製化を進めて、小規模企業はきつい。TPPで大手製造メーカーが潤っても、円安時と同様、下請け企業には関係ないのでは(輸送用機械製造業)。
- 取引先の生産はEU向けで、テロなどの社会情勢が気がかり(輸送用機械製造業)。
- 中国での製造品を検査しているが、最近、不良品が多くなっており、巷で言われるような中国経済の減速は、こういう所にも出ていると感じる(精密機械製造業)。
- 今は値段が手ごろで、ケアが楽で、発色性が良い服が好まれる。女性はあまり景気に左右されない(衣料品販売業)。
- 業界全体が技術者不足で、特に地方は深刻(建設業)。
- 建設業は過去に、防衛策として企業規模の縮小や、新卒社員の採用見送りをした企業が多く、その弊害が現在の技術者不足につながっている(建設業)。
- 今年は年末年始の休みが少なく、特にクリスマスから年末までの休みが少ないため、スキー場の来場は昨年を下回るのでは(観光業)。

## 最近の経済情勢と2016年の見通し

講師：(株)小宮コンサルタンツ 小宮 一慶さん

本日、米国が久しぶりに利上げをしました。これで2016年は世界経済の大きな転換点になるのではと思っています。私の予測では、米国は2年か3年のうちに最低でも2%~3%まで金利を上げていくと思います。市場がそれをどう読むのかは、なかなか難しいことです。



しばらくは相場が荒れるでしょう。それは米国経済の先行きより新興国です。特に注目しているのはアルゼンチンとブラジルで、不安定な状況がしばらく続くと思います。世界が最も恐れるのは、ドルで安定的に金利が取れるようになると、不安定な新興国から一気に資金が引き上げられることです。その発端が出てくると、一気に相場が荒れることになりかねません。

おそらく日米の金利差が3%程度開いてきたところから、円キャリーが起きます。日本円がこのままゼロ金利で、米国の金利がどんどん高くなると、円で買って即座に売ってドルを買い、ドルで運用する。もし為替レートが変わらなければ金利差だけで儲かります。これが円キャリーです。日本円だけでなく、他国も同様ですが、テロの問題などがある不安定な新興国からは一気に資金が吸い上げられる可能性があります。新興国は経済の底が浅いので、デフォルトになりかねません。

今、世界経済を引っ張っているのは米国ですが、絶好調ではありません。企業収益を見ると、自動車や住宅はまずまずですが、エネルギー業界と輸出産業全体が良くありません。米国のGDPの70%を支える個人消費も巡航スピード以下です。米国経済はピークを超えているという説もあります。また、欧州の経済状況は今、そこそこは維持していますが、正常な状態ではなく、それにテロの脅威が出ています。2016年もこのままの状態が続くと、よい状態ではありません。

今年の夏場には人民元ショックで、中国発の株の暴落を経験しました。人民元のレートは注意してみた方がいいと思います。中国人が日本へ爆買いに来るのは内外格差があるからで、人民元が下がり始めると終わると思います。中国経済は貿易黒字にはなりますが、輸出、輸入とも格段に減少しています。設備投資は鈍化し、リーマン・ショック直後に行った4兆元の投資の反動も出ています。さらに一人っ子政策で生産年齢人口も減少に転じます。中国経済が減速していることは間違いなく、しばらく良くなれないと考えた方がいいと思います。米国が利上げを始め、長い間日本やアジア、オーストラリアなどの経済をけん引してきた中国の経済が、減速方向に向かうという世界経済の転換点を迎えています。このため、来年はどちらに転ぶのか分かりにくい状況です。

日本経済は、様々な指標から今は踊り場の状況で、減速するかどうかが見えにくい状況です。2015年の夏場までは良かったけれど、中国ショックや米国の利上げ懸念があり、そこから回復していません。ただ一気には落ち込まず、行ったり来たりの状態です。再増税は景気がどうなるか分からず、政府は来年の夏から秋にかけて実質的に判断すると思います。景気が悪ければ先伸ばしする可能性もあります。経済環境が厳しくなる中で大切なことは一步踏み込むことです。経営者が先頭に立って一步踏み込んで会社を良くしてください。



SUWA SHINKIN BANK

## 諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

TEL 0266-23-4567 FAX 0266-23-8044

<http://www.suwashinkin.co.jp/>